

第 **4** 回

市民は新型インフルエンザの予防接種についてどのように考えているのか

和田耕治

国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局

はじめに

3回にわたって市町村が新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づいて行う集団的予防接種の検討のstepを紹介した。これまでの経験からして住民全員がワクチン接種をするとは到底思えないと考える担当者は多いであろう。しかし、市民の意識や実態に関するデータはあまりとられて来なかった。本稿では新型インフルエンザの予防接種に関する意識を把握することを目的とした調査結果の概要を紹介する。

方法

2014年1月にインターネット調査会社に委託し、約3,000名の20~69歳の男性・女性を対象に無記名の質問票調査を行った。インターネットによる調査に同意をしている人が調査内容を受け取り、自由な意志決定のもとで参加ができる。なお、本研究の実施にあたっては国立研究開発法人国立国際医療研究センターの倫理委員会で承認を得た。

予防接種に関する信頼度

予防接種が必要になった際に政府はその判断を市民に伝えることになる。多くの成人が普段から政府の予防接種に関する情報を気にしているとは考えられないが、平時において政府の判断などへの信頼度といった意識を把握することも重要である(表1)。

政府の予防接種に関する推奨や判断については、約7割が「信頼している」、「まあ信頼している」と回答したが、約25%が「あまり信頼していない」、約5%が「信頼していない」と回答した¹⁾。おおむね、推奨や判断、予防接種の効果や安全性のいずれも同様の結果であった。また、インフルエンザの予防接種の効果と安全性への信頼度についても問うたが、ほぼ同様の傾向であった。4人に1人が政府の予防接種に関する推奨やインフルエンザワクチンの効果などについて信頼しないと回答したことについてどのような対策が必要かを今後考える必要があるであろう。

最も信頼している情報源

予防接種をするかしないかについて意志決定する際に最も信頼している情報源について問うた(ひとつ選択)。